

クロアチア情勢

主な出来事

2014 年9月

内政

- 1日、大統領府において国防会議が開かれ、ヨシポビッチ大統領及びミラノビッチ首相が出席。8月5日に発生した空軍機墜落事故の暫定調査報告及びクロアチア軍の2014年までの長期的発展プログラムが検討された。同委員会において、クロアチア空軍の維持及びクロアチアの国防費を現状維持(GDPの1.2%)とすることを決定。
- 2日、サボ前ブコバル市長(SDP所属)に対するブコバル市議会HDZ党员2名への不正働きかけの嫌疑に対し、オシエク県裁判所が同氏に禁固16カ月の有罪判決。
- 5日、ロブリッチ＝メルゼル前シサク・モスラビナ県知事(7月にSDPから除名)が、公金着服の容疑による5カ月に亘る拘留から釈放。同前県知事は、クロアチア議会に対し、議員職の復権を要請。
- 6日、クロアチア社会民主党(SDP)の常任委員会が開かれ、全会一致で次期大統領選挙(本年末予定)におけるヨシポビッチ現大統領の支持を決定。
- 10日、カラマルコ・クロアチア民主同盟(HDZ)党首及びコソル・クロアチア社会自由党(HSLS)党首は、次期議会選挙における選挙協力と選挙後の連立形成に関する合意に署名。またHSLSは、次期大統領選挙において、HDZから立候補するグラバル＝キタロビッチ候補の支持を表明。
- 12日、アンテ・スタルチェビッチ権利党(HSPAS:極右政党)は、同党幹部会において、全会一致で次期大統領選挙におけるグラバル＝キタロビッチ候補の支持を決定。
- 13日、クロアチア農民党(HSS)は、幹部会において、グラバル＝キタロビッチ次期大統領候補を支持する旨表明。
- 21日、NGO「家族の名の下に(In the Name of the Family)」は、当国の議会選挙制度への選好投票制度導入及び阻止条項(ある政党が議席獲得に必要とする最小限の得票率)の閾値を5%から3%に引き下げる改正を行う国民投票請願のための署名集めを開始。
- 22日、マルティナ・ダリッチ元財務相(HDZ所属)が、HDZからの離党を表明。同党離党後も、議会議員職(無所属)を継続する意向。
- 22日、イストラ民主会議(IDS)が、次期大統領選挙におけるヨシポビッチ現大統領の支持を表明。
- 24日、アント・ジャピッチ・オシエク市議会議長(元オシエク市長)が、本年末に予定されている大統領選挙への立候補を表明。

- 26日、カラマルコHDZ党首及びイルチッチ・クロアチア成長党(HRAST)党首は、次期議会選挙における選挙協力と選挙後の連立形成に関する合意に署名。
- 27日、バンディッチ・ザグレブ市長が、次期議会選挙への立候補を表明。
- 28日、新政党「人民党ーリフォーミスト」結党大会が開催され、チャチッチ前HNS党首(元第一副首相)が同党新党首に選出。また、同党は、次期大統領選挙におけるヨシポビッチ現大統領の支持を表明。
- 28日、クロアチアの夜明け党のミラン・クンジッチ党首が、次期大統領選挙への立候補を表明。

外交

- 1日、8月28日より中国・韓国外遊中のレコ議会議長は、韓国・ソウルを訪問し、チョン・ウィファ韓国議会議長と会談。両国の経済分野での二国間協力の促進について意見交換。また、議長一行は、サムスン電子社を訪問し、韓国貿易協会代表らとも意見交換した。
- 1日、プシッチ第一副首相兼外務・欧州問題相は、訪問中のモルドバの首都キシニョフにおいて、イウリエ・レアンカ・モルドバ首相と会談。EU加盟のための統合プロセスにおけるクロアチアの経験につき意見交換。
- 2日、プシッチ第一副首相兼外務・欧州問題相及びロレンツィン観光相は、スロベニア・ブレッドにおいて開催された「ブレッド戦略フォーラム」に出席。南東欧諸国協力、世界における信頼のあるより強力な統合プロセスの重要性、現在の人口動態傾向を踏まえた世代間対話等につき意見交換。
- 2日、イラク及びシリアに跨る地域で活動が続けている「イスラム国(IS)」がインターネット上で公開した3人目の犠牲者となると予告された英国人人質デイビッド・ヘーンズ氏は、クロアチア国内(当国中部シサク市)に住居及びクロアチア人配偶者を有している人物である旨報道。
- 3-4日、ハイダシュ＝ドンチッチ海事・運輸・インフラ相及びクリソビッチ外務次官は、トルクメニスタンにおいて開催された交通運輸国際会議に出席。
- 4-5日、英国ウェールズにて開催されたNATO首脳会合に、クロアチアからヨシポビッチ大統領、プシッチ第一副首相兼外務・欧州問題相、コトロマノビッチ国防相が出席。ヨシポビッチ大統領は、クロアチアに対し、ウクライナ危機に対処するNATO即応部隊(NRF)の要請はなかった旨言及。
- 7日、ヨシポビッチ大統領とパホル・スロベニア大統領は、両国国境を挟むプラビッチ／セドラリエボにおいて、両国国境地域における長年の二国間協力を記念する式典に出席し、両国間における長きに亘る誠実な友情を確認。
- 8日、クロアチア選出のプレンコビッチ欧州議会議員(HDZ所属)が、欧州議会におけるEU・ウクライナ議会協力委員会(EU-Ukraine Parliamentary Cooperation Committee(PCC))の議長に任命。

●9日、ミラノビッチ首相がマケドニアを訪問。イヴァノフ・マケドニア大統領及びグルエフスキー同国首相と会談し、良好な両国間関係と友情及びマケドニアのEU／NATOへの加盟協力の継続と強化を確認。

●9日、独ミュンヘンの高等地域裁判所は、カールスルーエ市検察当局が発行していたムスタチュ元ユーゴ国家安全保障局長官の起訴状(1983年に独でクロアチア人のジュレコビッチ氏殺害を指示したとされる容疑)を支持し、同事件で同様に起訴されているペルコビッチ元ユーゴ国家安全保障局員(事件後、長官)との合同裁判を実施することを決定。右公判は、本年10月17日から開始予定。

●10日、ユンケル次期欧州委員会委員長は、クロアチア選出のミミツァ欧州委員を、「国際協力・開発担当」欧州委員に任命。

●17－19日、レコ議会議長は、米ワシントンD. C. で開催された議会情報保全フォーラム(parliamentary intelligence and security forum)に出席。欧州及び米国における、集団的安全保障が主要な議題となった。

●21－22日、デンプシー米国統合参謀本部議長がクロアチアを訪問し、ミラノビッチ首相及びコトマノビッチ国防相と会談。クロアチア政府は、同本部議長に対し、クロアチアの独立、統合、国際的評判に多大な貢献をしたとして、勲章を授与した。

●21－26日、ヨシポビッチ大統領及びプシッチ第一副首相兼外務・欧州問題相は、第69回国連総会出席のためニューヨークを訪問。

●28－10月3日、ミラノビッチ首相は米国を訪問し、同国における5大IT企業(Cisco, IBM, Microsoft, Oracle, Hewlett-Packard)を訪問。右訪問には、モルナル科学・教育・スポーツ相、バルガ保健相、クリソビッチ外務次官らが同行。

●29－30日、レコ議会議長は、ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)北部(トゥズラ、ブルチュコ、オジヤク、オラシュ、ドマリェバツ)を訪問。クロアチア・BH間の強固な善隣関係を確認。

経済

●1日、世界銀行は、ベネズエラ人のカルロス・ピネルア氏を、クロアチア及びスロベニア担当の新カントリー・マネージャーに任命。(同氏はザグレブの世銀事務所で勤務することになる。)

●1日、MOL社(ハンガリーの石油会社)及びクロアチア政府は、当国経済省公式ホームページにおいて、共同声明を発表。MOL社はINA社(クロアチア石油公社)の商業利益を最大限考慮した行動をとること、また、MOL社が保有するINA株式を売買する場合、新たな株式購入者はMOL社の義務をすべて引き継ぐことを保証する必要があることに言及。右が保証されない限り、MOL社は仲裁裁判が継続する間、保有するINA株式を売却することはできなくなった。

●2日、クロアチア電力公社(HEP)は、同社ホームページにおいて、丸紅に対し「プロミンC火力発電所建設・投資プロジェクト」の第1優先交渉権を与えた旨発表。今後、HEPと丸紅は右交渉を本年末までに完了させ、2015年初めに両社間の契約書に署名することを目指す。

●2日、韓国を訪問中のレコ議会議長一行は、韓国・ソウルで「韓国・クロアチア経済フォーラム」を開催し、右フォーラムにおいて、議長一行に同行していたクロアチアの企業と韓国企業との協力につき合意。

●8日、グルッチ地域開発・EU基金相は、ブリュッセルで行われた第6回コヒージョン・フォーラムに出席し、ハーン欧州委員（地域政策担当）が、クロアチアにおけるドゥブロブニク空港拡張（upgrading）及びドゥブロブニク沿岸地域に繋がる交通網建設へのEU構造・投資基金からの出資を確約した旨言及。

●11日、クロアチア政府は、トミスラヴ・シェリッチ・クロアチア電気公社（HEP）社長を解任し、同社役員会からペリツァ・ユキッチ氏を新社長代行に任命。また、その他2名の経営陣が交代。

●22日、韓国がザグレブにおいて、農産物、食品、電気機器、造船、観光業を対象としたビジネスフォーラムを開催。

●24日、ラロバツ財務大臣は、クロアチアにおける社会的弱者の扶助サービス等の効率化等を念頭に置いたクロアチアの社会的保護制度の近代化プログラムに対し、世界銀行から7千万ユーロの融資を受ける合意書に署名。

●26日、プロチェ港は中国企業（CNBN）と港内にばら積み貨物ターミナルを建設するプロジェクト（30百万ユーロ規模）の契約に署名。プロチェ港側は資機材調達、中国企業側は組立て及び設置を担当、右ターミナルは完成後（2016年央予定）一日当り35000トンの取扱量が期待されている。

主要経済指標

（2014年月次データ、対前年同期比（除く失業率）、政府統計局発表）

輸出総額 （1～7月）	輸入総額 （1～7月）	貿易赤字 （1～7月）	工業生産高 （8月）	インフレ率 （8月）	失業率（登録制） （8月）
+12.1% （449 億クーナ、 58.9 億ユーロ）	+5.3% （767 億クーナ、 100.7 億ユーロ）	-3.0% （318 億クーナ、 41.8 億ユーロ）	-4.7% （7月：+1.4%）	-0.3% （7月：-0.1%）	17.5% （7月：17.8%）

本クロアチア情勢は、クロアチアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、記載事項については在クロアチア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。